

徹底討論

前川喜平

(前文科省事務次官)

寺脇研

(元文部官僚)

これからの日本、 これからの医療や教育

前川喜平氏 & 寺脇研氏、ふたりの元文部科学省官僚が、
これからの日本、医療や教育について、本音でトークします。
文科省OBへの再就職あっせんが法律に抵触したことで文
科省を追われ、「モリカケ問題」で注目を集めた前川喜平
氏。いわゆる「ゆとり教育」「脱偏差値」「学校週5日制」など
を推進したことで「ミスター文部省」と呼ばれた寺脇研氏。
今だから語れる、今こそ伝えたいこと、あの問題の真相もズ
バリ!? 語られるはずです。

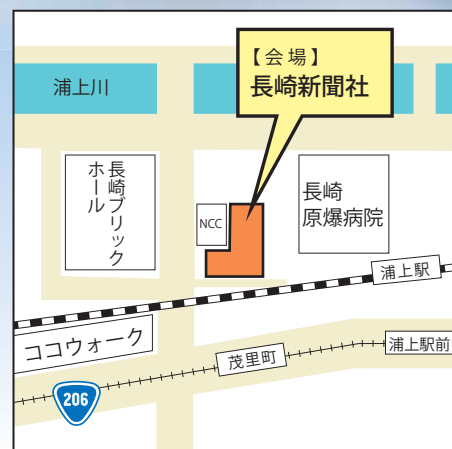
とき：2018年**11月17日** (土)

15:30~17:30 (受付 14:30~
開場 15:00)

ところ：長崎新聞文化ホール アストピア
(長崎市茂里町3-1)

入場料：1,000円 (前売り券はありません。当日受付で
入場料をお支払いください。)

定員600人 (先着順)。入場者多数の場合は、本会場とは別のLIVE中継会
場へのご案内か、入場をお断りする場合があります。予めご了承ください。



アクセス 電車：茂里町電停から徒歩2分
JR：浦上駅から徒歩3分
バス：茂里町バス停から徒歩2分

※会場の駐車台数に限りがありますので、公共交通機関をご利用ください。

共催：長崎県保険医協会 (県内1930人の医師・歯科医師で構成する団体)

言論の自由と知る権利を守る長崎市民の会 (長崎県内外のマスコミOB、現役、市民で構成)



前川喜平氏

略歴

1955年 奈良県御所市生まれ
 1979年 東京大学法学部卒業後文部省に入省。
 大臣官房長、初等中等教育局長を歴任
 2016年 文部科学事務次官に就任
 2017年 退官
 現在、現代教育行政研究会代表

◆講師からのメッセージ

憲法13条は「すべて国民は、個人として尊重される。生命、自由及び幸福追求に対する国民の権利については、公共の福祉に反しない限り、立法その他の国政の上で、最大の尊重を必要とする。」と宣言しています。いま本当に一人一人が個人として尊重されているのでしょうか。一人一人の生命、自由、幸福追求権が、最大に尊重されているのでしょうか。そして公共の福祉は正しく実現されているのでしょうか。国家主義と新自由主義が自由を抑圧し、格差を拡大し、公共の福祉を弱体化させているのではないのでしょうか。一人一人の個人が輝き、人々が繋がり合い、分かち合う真の公共の福祉を目指すべきではないのでしょうか。

国家による国民支配
 — 私たちが見てきたものを今伝えたい



寺脇研氏

略歴

1952年 福岡県生まれ
 1975年 東京大学法学部卒業と同時に文部省
 (当時)に入省
 職業教育課長、広島県教育長、医学教育課長、生涯
 学習振興課長、官房政策課長、官房審議官、文化庁
 文化部長などを歴任し、2006年退職
 2007年より京都造形芸術大学教授

◆講師からのメッセージ

森友学園問題が国民の疑惑を招く中、今度は加計学園問題が表に出ました。同時に、文部科学省前事務次官の前川喜平さんが立ち上がり、「行政がゆがめられた」と告発を始めます。私は、前川さんを深く知る者として、また文部行政に長年携わった者として、その闘いを応援するのが自分の責務だと思って活動しています。また森友・加計問題だけでなく、道徳の教科化、大学の自治への介入、前川さんの名古屋市の中学校での授業を文部科学省が細かく調査しようとしたことなど、国家の教育支配がすすむ様子も、憂えるべきものです。その危機感を皆さんと共に考えてみたいと思います。

お問い合わせ 長崎県保険医協会

〒850-0056 長崎市恵美須町2-3 フコク生命ビル2階 TEL 095-825-3829

※電話での申込は受け付けません

